

ベトナムFW 8/2～8/4 医療班報告

国際科の医療班4名（井戸、中尾、水田、山口）は、8月2日から4日までの3日間、ハノイを中心にフィールドワークを行ってきました。

1日目（WHO訪問・熱帯医学研究所ベトナム拠点講義）

ベトナムにある、WHOの事務所で働いている加藤さん、竹内さん、そしてインターンとして2か月間研修をしている医師の小林さんから、WHOの目的や役割、どのような活動を行っているのかを説明していただきました。その中で、2003年に流行したSARSをいち早く突き止め、献身的に治療を行ったウルバニ先生についてのお話がとても印象に残りました。感染をベトナムに広げまいと奮闘した結果、ウルバニ先生自身もSARSに感染し、亡くなってしまいました。WHOの方々も、自らの命を懸けて仕事をされているということを知り、とても驚きました。

午後からは、長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点の拠点長である長谷部先生から、デング熱などの感染症についての講義をしていただきました。その講義の中では、天然痘という病気だけが唯一撲滅できたということが特に印象に残っています。



2日目（ナムディン農村地区訪問・蚊の実験準備）

午前中は、農村地区であるナムディンで、熱研の竹村先生が行っているコレラ菌の採取に同行させていただきました。コレラ菌の採取は、エビの殻を川に垂らし、殻に菌を付着させるというものでした。その川は、生活用水として利用しているというお話も聞きました。途中で、現地の病院も訪問しましたが、そこはベッドが4床ほどあり、ワクチンも定期的に送られてくるなど、内科的な処置はある程度できるようでした。しかし、外科的な処置はできず、手術はできないということでした。また、トイレなどにおける衛生面が不十分な場所もありました。さらに、市場なども見学し、肉が屋外で売られている状況なども見学でき、現地の生活を疑似体験できました。

午後からは、角田先生と蚊の実験準備を行いました。ナムディン村で採取した葉に蚊の忌避効果があると言われていたため、3つの装置には何も入れず、残りの3つの装置には葉を入れて、一晩放置しました。



3日目（蚊の実験・熱帯医学研究所ベトナム拠点講義）

午前中は、角田先生と、ナムディン村で採取した葉を用いての対照実験を行いました。結果は、葉を入れた装置にのみ蚊が捕まっており、残念ながら効果は実証できませんでした。その後、実験でとれた蚊や熱研で飼育している蚊を観察し、雌雄や種類による特徴を見分けるポイントを教えていただきました。また、外来生物についての講義もしていただきました。

午後からは、再び長谷部先生から、ウイルスを媒介する動物についての講義をしていただきました。コウモリがウイルスを媒介するというお話には驚きました。研修の最後には、これまでのフィールドワークをまとめたプレゼンテーションを英語で行い、先生方やベトナム人の院生の方々に聞いていただきました。貴重なご助言もいただき、今後の研究に活かせることが盛りだくさんの3日間でした！

